

第3回 市民と議会との意見交換会 報告書



開催日 平成29年8月21日(月) いなっせ
8月22日(火) 伊那公民館
8月24日(木) やますそ

1	はじめに	1
2	議長あいさつ	2
3	意見交換会の概要	3
4	参加者アンケート結果	4
5	意見交換会で出された意見とその後の検討結果	9
6	各会場の様子	35

伊 那 市 議 会

【はじめに】

伊那市議会では3回目となる「市民と議会との意見交換会」を開催しました。今回も市内3会場で開催し、多くの市民の皆様に参加していただき、誠にありがとうございました。

意見交換会のテーマは、3つの常任委員会（総務文教委員会・社会委員会・経済建設委員会）ごとに、伊那市が抱えている課題は何か、市民の皆様が注目していることは何かを考え設定しました。当日は分科会ごと、テーマに沿って意見交換会をして頂きました。1回目、2回目と比べ積極的に建設的な意見を出して頂きました。アンケート結果でも多くの皆様に良かったとの評価をいただき有難く思っています。

意見交換会実施後は、各委員会で意見集約をし、調査・検討等を経て議会活動に生かしてきた結果をこのたび報告書としてまとめましたので、市民の皆様に報告させていただきます。

当日実施しましたアンケート調査からは、意見交換会を継続するための課題がいくつか見えてきました。今後は、実施会場の数、実施日数、実施時間、結果報告書の周知の方法等、検討を重ねながら工夫を凝らし、多様な世代、数多くの地域の皆様と意見交換を行い、皆様の声を政策提言につなげることにより、市民に開かれた議会、透明性のある運営、住みよい伊那市を目指すための市民の代表者としての議会であるという機能を果たしていきたいと考えてまいります。

なお、「市民と議会との意見交換会」に関するご意見・要望等がございましたら、議員又は市議会事務局までお申し出くださるようお願いいたします。

平成30年3月1日

伊 那 市 議 会



皆さまには、お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。

議会とは何ぞや。議会の存在感はどこにあるのか。市政の動きの中で、一体議会は何をやっているのだろうか・・・。

様々な意見が市民の皆様から聞こえてきますが、議会は市民の代表者という立場で成り立っているわけです。代表者である以上、市民の意見を代表者たる議員がしっかりと掌握して、それを議会が市政の場で発言し運営していくというのは、議会として本質的なことであ

ります。

このような点を議員全員で協議する中で、市民との意見交換会を実施し、市民の皆様から意見をきちんと議会が吸い上げて、議会としての総意をまとめていこうということで、3回目の市民との意見交換会の催しとなりました。

ただ、議員21名もそれぞれの見解を持っておりまして、また市民の皆様もそれぞれの考えがある中で、全ての個人の意見がそこで通るものというわけではありません。

出された意見に対して、議会全員の中で意見を集約させていただきたいと思っておりますし、また、事業を実施するに当たっては当然予算を伴うこととなりますので、予算については市政の中でどんな形をとれるか議会の中でしっかりと吟味し、議会としての総意を打ち出していきたいと思っております。

最初に申し上げましたように、議会は市民と共に存在する。これが一番の基本です。その意味でも本日は3つの分科会に分れて、皆さまが忌憚のない意見を出せるような体制をとっておりますので、是非皆さまのご意見を聞かせていただき、そしてそれが少しでも市政の中で生きていくような形をとっていければ、我々議会として大変本望であります。

本日はよろしく願いいたします。

意見交換会の概要

1 開催日時、会場及び参加者数

○平成29年8月21日（月）19：00～21：00
生涯学習センター「いなっせ」
参加者数：56名

○平成29年8月22日（火）19：00～21：00
伊那公民館
参加者数：71名

○平成29年8月24日（木）19：00～21：00
高遠町総合福祉センター「やますそ」
参加者数：57名

2 内容

3つの分科会ごとに分かれ、あらかじめ決めてありましたテーマに沿って、意見交換を行いました。

3日間とも共通で、各分科会のテーマは次のとおりでした。

【総務文教分科会】 懇談会形式 担当：総務文教委員会

「地域コミュニティを考える
～地域活性化と郷土愛を育む取り組みについて～」

【社会福祉分科会】 ワークショップ形式 担当：社会委員会

「いつまでも安心して暮らし続けるために、支え合う地域づくり
～在宅介護、医療健康、買い物や生活支援など、地域が抱える問題の解決に向けて～」

【経済建設分科会】 ワークショップ形式 担当：経済建設委員会

「あなたがやりたいまちづくり
～農林業・観光・幹線道路～ともに語ろう身近な課題～」

第3回 市民と議会との意見交換会アンケート集計表

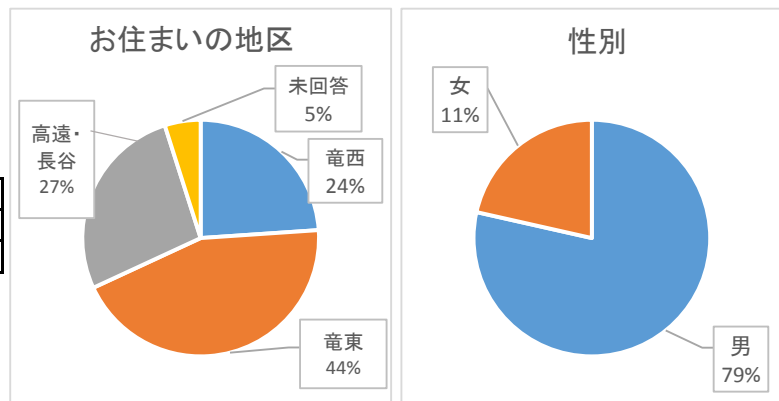
回答者数 163人

お住まいの地区は、どちらですか。

竜西 37	御園 1	山寺 5	小沢 1	荒井 8	西町 4	ますみヶ丘 3	西箕輪 8	西春近 7
竜東 74	中央 1	日影 2	境 1	野底 1	狐島 4	上牧 3	上の原 3	東春近 14
高遠・長谷 44	前原 1	美原 1	美篤 26	福島 3	手良 8	若宮 1	富県 5	
未回答 8	高遠 31	長谷 13						
全体 163								

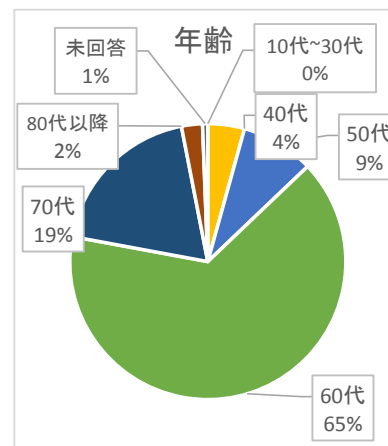
性別

	人数	割合
男	128	79%
女	35	21%



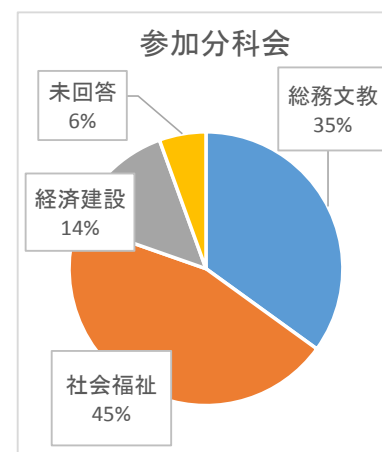
年齢

	人数	割合
10代	0	0%
20代	0	0%
30代	0	0%
40代	7	4%
50代	14	9%
60代	106	65%
70代	31	19%
80代以降	4	2%
未回答	1	1%



参加分科会

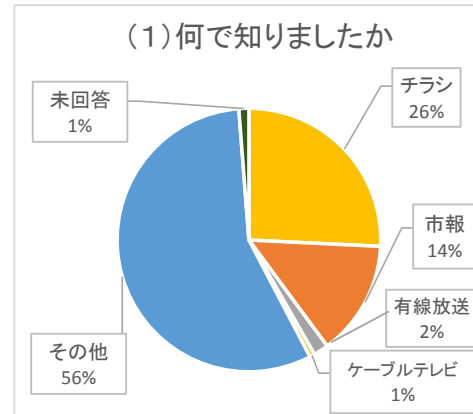
	人数	割合
総務文教	57	35%
社会福祉	74	45%
経済建設	23	14%
未回答	9	6%



1 市民と議会との意見交換会について

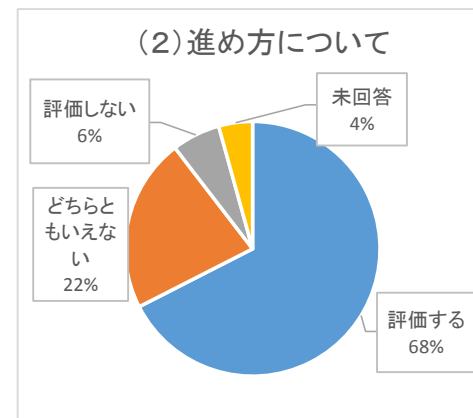
(1)この意見交換会を何で知りましたか

	人数	割合
チラシ	42	26%
市報	23	14%
有線放送	3	2%
ケーブルテレビ	1	1%
その他	92	56%
未回答	2	1%

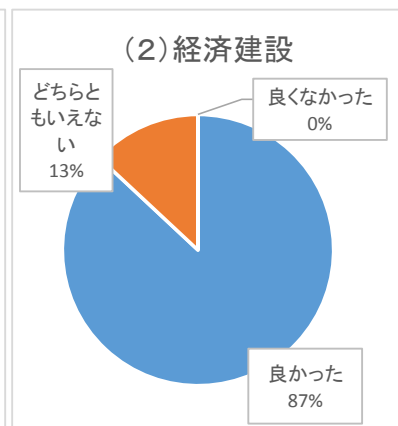
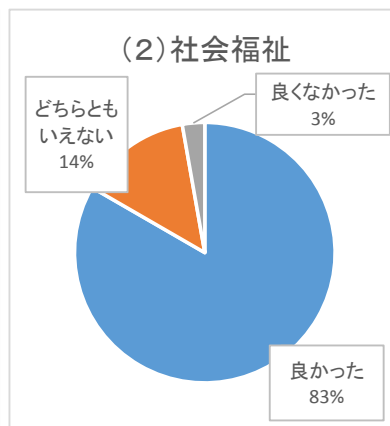
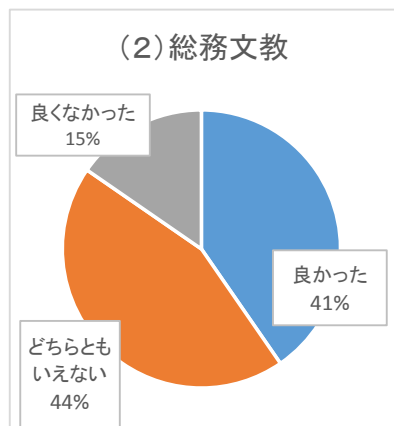


(2)意見交換会の進め方について

	人数	割合
評価する	110	68%
どちらともいえない	36	22%
評価しない	10	6%
未回答	7	4%

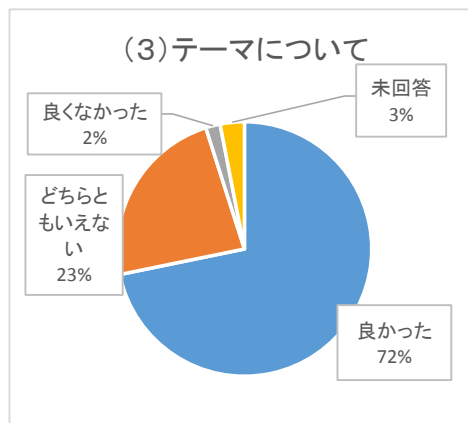


<分科会別>

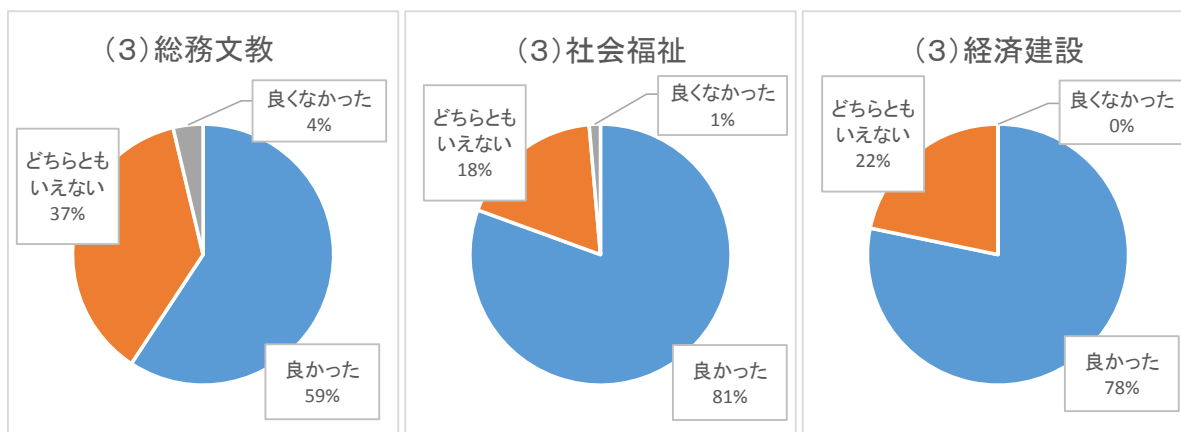


(3)意見交換会のテーマについて

	人数	割合
良かった	117	72%
どちらともいえない	38	23%
良くなかった	3	2%
未回答	5	3%

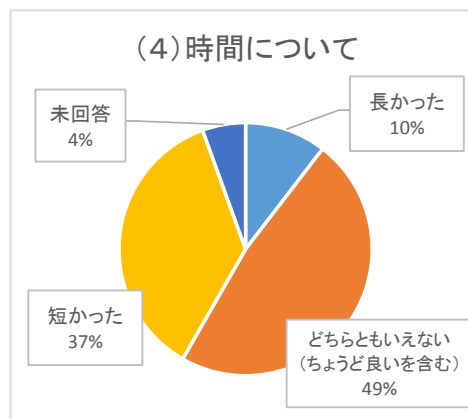


<分科会別>

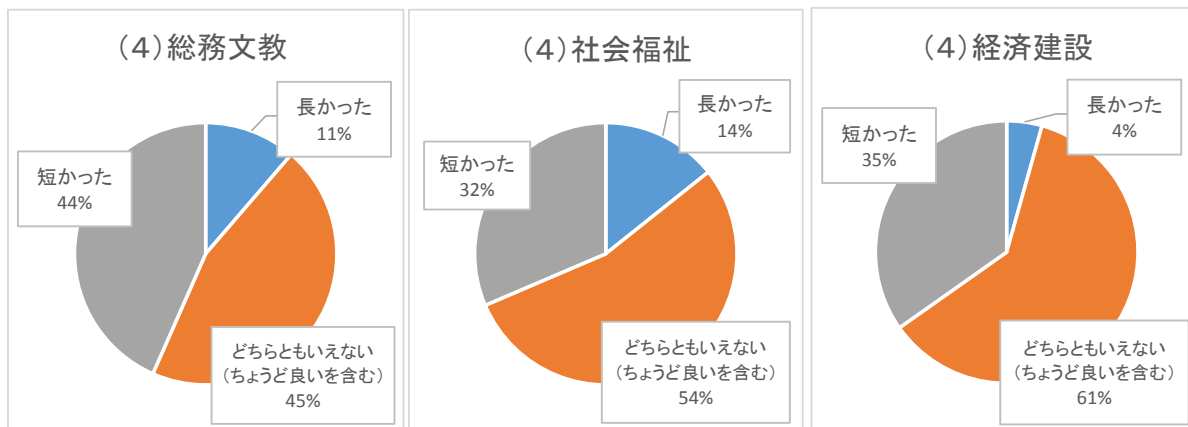


(4)意見交換会の時間について

	人数	割合
長かった	17	10%
どちらともいえない (ちょうど良いを含む)	78	49%
短かった	59	37%
未回答	9	4%



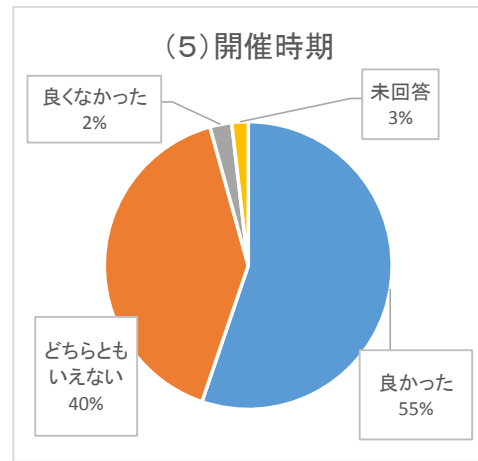
<分科会別>



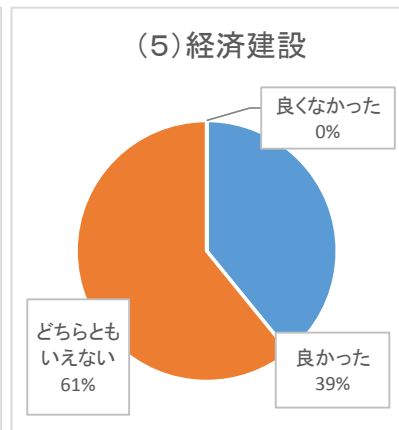
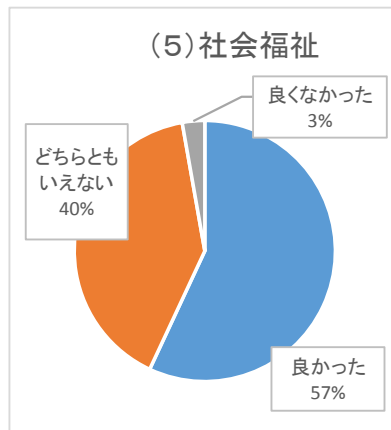
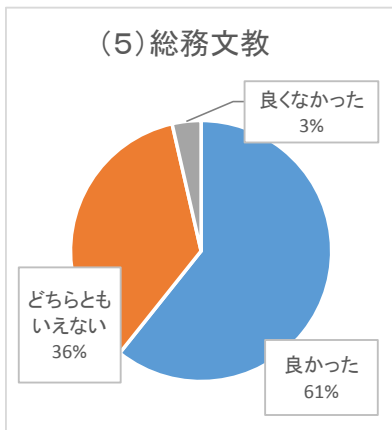
(5) 意見交換会の開催時期について

	人数	割合
良かった	90	55%
どちらともいえない	66	40%
良くなかった	4	2%
未回答	3	3%

※良くなかった場合、開催時期はいつが良いか
 ……3月(1) 9月(1)

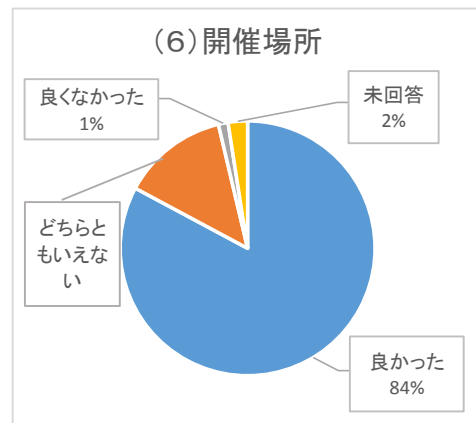


<分科会別>

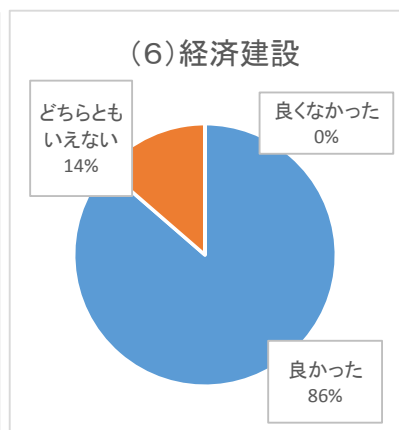
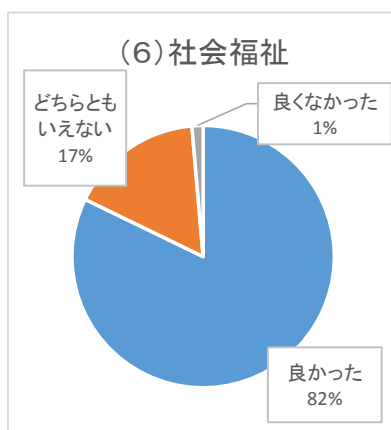
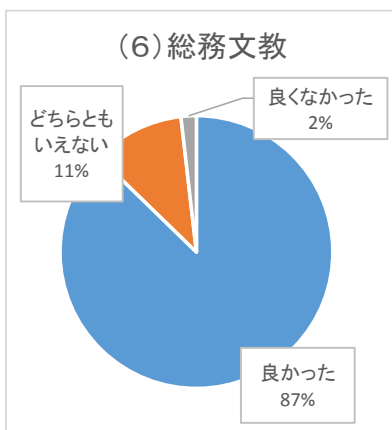


(6) 意見交換会の開催場所について

	人数	割合
良かった	135	84%
どちらともいえない	22	13%
良くなかった	2	1%
未回答	4	2%

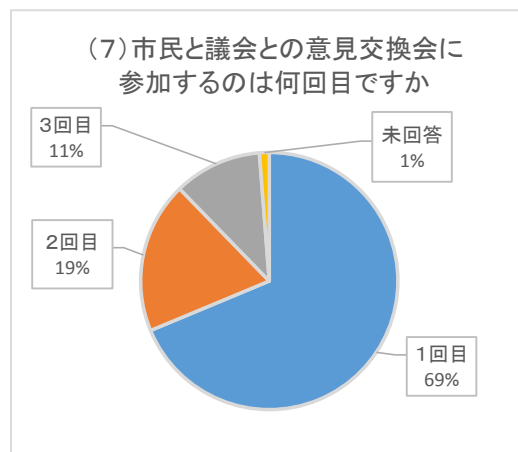


<分科会別>



(7) 市民と議会との意見交換会に参加するのは何回目ですか

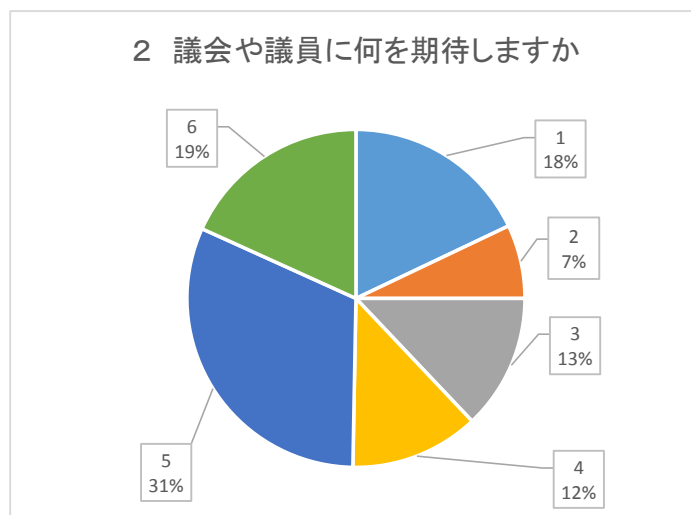
	人数	割合
1回目	112	69%
2回目	31	19%
3回目	18	11%
未回答	2	1%



2 市議会について、議会や議員に何を期待しますか。(複数回答)

※全回答者数に対する各項目の回答者の割合

	人数	割合	※
1 政策提案	61	18%	35%
2 調査活動の充実	24	7%	14%
3 情報公開	44	13%	25%
4 行政に対する監視機能の強化	42	12%	24%
5 地域の課題を解決する活動	107	31%	61%
6 市民との対話の場の設置	62	19%	36%



意見交換会で出された意見と
その後の検討結果

検討テーマ	処理担当委員会
行政区と市の役割分担について	総務文教委員会
市民から出された意見	
<p>① 区の役割が増えて行政の役割が希薄になってきていると思う。区の負担が多すぎる。</p> <p>② 区の役員の仕事が重い。区長は非常に苦勞している。役員数を減らすには？役員の任務負担を減らすには？考える必要があると思う。</p> <p>③ 行政の役割と区の役割分担について、改革する必要があるのではないか。</p> <p>④ 区内の街灯整備は進んでいるが、区と区の間での街灯整備が盲点になってはいないか心配。現状は区と区の間は暗い。通学路や生活道路で、区と区の間での現状を行政が把握して対応すべきではないか。</p>	
現状・市の対応（地域創造 課）	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 区や区長に依頼していること 一覧 参照（次ページ 区長会資料よりまとめ） 	
総務文教委員会での検討結果	
<p>①～③について 行政から区や区長に依頼していることの一覧を見ると、多岐にわたり大変なのは理解できるが、全てを区長が一人で担っているものでもなく、各役員の協力を得て頑張ってくれていると思われる。 行政は、全てを区長宛てに依頼するのではなく、直接担当者に通知して支障の無いものは担当者宛てとするなど、区長の負担を減らす工夫や取り組みを検討されたい。</p> <p>④について 現状を調査して対応されたい。</p>	

【資料】

区(区長宛て)に依頼している業務

	内 容
【毎月】	1 文書配布(市報・回覧文書)
【年一回】	1 市単事業要望とりまとめ、要望書提出(建設・耕地林務)
	2 コミュニティ助成事業補助金申請
	3 地域発元気づくり支援金申請
	4 伊那市協働のまちづくり交付金申請
	5 コミュニティ振興事業補助金申請
	6 各種募金とりまとめ
	日赤
	緑の募金
	社協会費
	赤い羽根共同募金
	7 県民交通災害共済加入のとりまとめ
	8 各種検診希望取りまとめ
	9 保健委員・協力員の選出
	10 災害時住民支え合いマップの作成(見直し)
	11 地域ケア会議への出席
	12 農家基本台帳連絡員の選出
	13 野生鳥獣被害防止策防護柵設置要望とりまとめ・被害状況調査
14 自主防災組織編成・訓練実施	
15 防犯灯設置補助申請	
16 新入消防団員確保依頼協力	
17 除雪機械整備補助申請	
【三年に一回】	1 民生児童委員の選出
【随時】	1 市が補助する事業に該当があった場合の申請
	2 住まいとして利用可能な空き家の情報提供
	3 高齢者クラブの活性化及び結成への支援
	4 松枯損木処理要望書提出
	5 隣組編成等 変更登録
	6 道路への倒木、枝張り見回り、道路河川水路の見回り
	7 うるおいの郷づくりふれあい事業(地域の清掃活動)
	8 その他 区長出席年間行事

検討テーマ	処理担当委員会
移住定住に係る取組みについて	総務文教委員会
市民から出された意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 働く場所の誘致を。若者に魅力のある働き場所を。（芸術やIT関係も田舎でできる） ・ UIターン者や移住者に、「どういう魅力があってここに来たか」声を聞くべき。その結果を参考に、移住定住促進対策を進めればよいと思うが、道路の利便性だけは確保すべき。 ・ 入区費が高いのが移住定住の足かせになっているのではないか。 	
現状・市の対応（地域創造課・商工振興課・産業立地推進課）	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業誘致、企業留置に努めるとともに、クリエイティブ産業設置補助金により、デザイン業、情報サービス業などの起業者に対しても支援しています。また、サテライトオフィスも設置し、市外からの移住定住を見据えた支援にも取り組んでいます。今後は更に周知に努めていきます。 ・ 伊那市の魅力なども含めて、移住者の声を聞き取り、市ホームページの移住応援サイトに掲載するとともに、移住相談や情報発信の充実に努め、移住定住策の促進に努めています。 ・ 各区長会長あてに、平成29年8月7日付で、「入区費に係る各区等での検討について（依頼）」を通知済です。 	
総務文教委員会での検討結果	
<p>（県で実施したアンケートや、伊那市公式ホームページに掲載されていた移住してきた方々の声を参考に検討）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 行政は引き続き、若い世代の働く場所の確保を進めてもらいたい。 ・ 環境景観整備の充実を図られたい。 ・ 移住転入者も大切だが、中高生に対して「将来は地元へ戻る」という意識づけの取り組みを更に充実されたい。 ・ 入区費については、各区に対して入区費検討依頼の通知が行政側から出ているので、移住者が移住しやすいように、各区で入区費等の検討をされたい。 	

検討テーマ	処理担当委員会
災害時対応の取組みについて	総務文教委員会
市民から出された意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 天竜川で伊那市を東西に分けて考えたとき、災害時に橋が落ちればどこにも行けない。天竜川より西には災害時に拠点となる施設ができるが、東への対策はどう考えているか。(市役所が機能しなくなった場合) 	
現状・市の対応(危機管理課)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 落橋防止等の対応により、すべての橋梁が落ちることは想定していませんので、いずれかの橋で行き来ができるものと考えています。 ・ 現在建設中の防災コミュニティセンターは、市役所庁舎が災害対策本部として機能しなくなった場合、災害対策本部として活用するほか、大規模災害時の受援拠点施設として、使用することを予定しています。 ・ 伊那市業務継続計画(BCP)において、天竜川東側では富県支所を市役所庁舎の代替施設として位置づけています。また、美篤支所や手良支所、東春近支所も耐震性が確保された施設となっています。加えて、高遠町総合支所や長谷総合支所の中心機関があり、これらの施設もそれぞれ代替施設を指定しています。総合支所や各支所は、現地対策本部等として情報収集や住民支援を行っていきます。 ・ 本年度から消防団が使用していた移動系防災行政無線を整備して、市の施設へ順次再配備していくほか、市内に居住するアマチュア無線資格者の協力を得て、天竜川の東西を始め、市内各地と災害対策本部と通信を取りながら、その時の災害に対応した対策をとっていくこととなります。 	
総務文教委員会での検討結果	
<p>上記、担当課の回答のとおり、各支所に対応できると考えるが、「伊那市業務継続計画(BCP)」において、天竜川東側では富県支所を市役所庁舎の代替施設として位置付けていることを市民は知らないので、この「伊那市業務継続計画(BCP)」を広く市民に広報すべきである。</p>	

検討テーマ	処理担当委員会
公民館活動の充実について	総務文教委員会
市民から出された意見	
<p>① 総務省のWifi設置補助申請をして、各公民館にインターネット環境を整えてほしい。そうすれば、一気に公民館活動の場が広がる</p> <p>② 郷土愛を育む目的と、高齢者が外出する機会を多くするために、市民には歴史博物館や美術館などの年間パスポートを配ったらどうか。</p>	
現状・市の対応(生涯学習課・文化振興課)	
<p>① 施設におけるインターネット環境については、利用者からの整備要望も聞こえてきているところです。市の整備の方向性も検討されているところであり、財源等の確保ができれば市の方針に従って整備するよう検討していきます。</p> <p>② 歴史博物館では、館の事業「歴博講座」「中学生講座」への参加者、「小中学生社会科新聞展」開催期間中は、上伊那郡市の小中学生の保護者は、無料にて入館していただいております。 美術館では、市民ギャラリーにおける「市内園児展」「高遠高校専科卒業展」、全館展示を行う「伊那市民美術展」については、無料で入館していただいております。 また、市内公民館の講座や地域社会福祉協議会での事業におきましては、減免申請により減免で入館していただいております。 今後も減免で入館していただける機会を増やししながら、市民の皆さんにこうした機会に積極的にお出かけいただくよう広報したいと考えます。なお、年間パスポートの配布については実施する予定はありません。</p>	
総務文教委員会での検討結果	
<p>① 公民館活動の充実のために、各支所単位の公民館については、Wifi設置を進めてもらいたい。</p> <p>② 受益者負担の考え方の面から、全額無料や年間パスポートを配ることまでしなくても良いと考えるが、高齢者福祉券の使い道として、文化施設に使用できるようにしたり、全戸配布される企画展チラシの隅に割引券を印刷するなど、市民に多く利用してもらう工夫は必要である。</p>	

総務文教分科会で出されたその他の意見

《 竜西地区会場：いなっせ 》

- ・地区が元気だと人間関係が良くなり、信頼関係ができる。
- ・子ども向けの行事をすると保護者は必ずついてくるのだから、大人同士の交流も兼ねられる。
- ・人に愛される子供たちを地域で作りたい。
- ・子供たちを意識して行事などを続けているところから、大人も子供も郷土愛が生まれる。
- ・地区のスポーツ育成会などに子供たちが入りたがらない。どんな理由で入らないか調査して分析してほしい。
- ・婚活の組織を作ってほしい。
- ・地区内は街灯等整備されているが、地区と地区との間の整備が心配。現状は暗い。
- ・高速道路周辺や完成するスマートインター周辺は整備されているが、その周りは不法投棄等多い。 近隣住民の生活の安心安全を優先に考えてほしい。
- ・自分が今住んでいる地区は、自分の地区を魅力的にしたいという意欲が感じられない。
- ・東京から転入してきたが、地方で暮らすにはお金がかかると思った。
- ・「区」に入る制度は都会からの転入者にとっては馴染みがない。
- ・区費が高い。区費の中で子供の行事に使える比率が低い。
- ・「区」の制度は移住や転入する人の足かせになっている。
- ・自分の地区を大切に守っていくには「区」の制度も大切。
- ・区の子ども行事はPTAと分館が協力して活動しているが、PTAは子供のいる家庭皆がPTAなので、行事はPTA主体がいいと思う。
- ・新山は全戸PTAである。全戸PTA会費も納めて、地域全体で学校を盛り上げている。
- ・地域防災を考えたときに、区や組に入っていない人たちが一番困る。防災マップを作ってくださいと言われるが、完全なものできない。
- ・消防団や区の役員のなり手がいない。
- ・区に入っていないと名簿や防災マップができないというが、都市部ではどうしているのだろうか。
- ・区の役割や負担が大きすぎ。市や行政の役割が希薄になってきているのではないか。

《 竜東地区会場：伊那公民館 》

- ・どこの地区も行事を実施するのに苦労している。
- ・役員の本気度で違ってくる・・・労を惜しまず地道な行動ができるかどうかのカギ。
- ・行事の数を絞って、一つの行事に大勢集客するのも一つの案。
- ・役員が大変なことはよくわかるので、自分が役員でなくても行事には参加してあげたいと思っている。
- ・小さいうちから、郷土の歴史を公民館行事で学べば、郷土愛が育まれるのではないか。
- ・地区の行事には報道各社に来て取材をしてもらい、PRしている。
- ・大きい区に成長してしまい、区の役員の半分以上顔も知らない状態。
将来、公民館を建てなおさないと、敬老会のときなど全員入れないような状態になりそうではあるが、一方では区の駅伝やソフトボール大会のときは、各常会チームをつくるのに一苦労という現状・・・結局若い人が集まらない。
- ・区の中で増えている地区と減っている地区がありアンバランス。
- ・少ない地区は3地区合同の夏祭りをやってみて盛況だった→というように、これからは工夫が必要。
- ・PTA会員が少ないけれど、行事をやめるのではなく、なんとか続ける工夫をしたい。
- ・伝統行事はつづけたい。
- ・地域の活性化はやはり人が増えること。
- ・伊那市は子どもが遊ぶ施設が少ない→特に東部に少ない。
- ・地区の獅子舞を守るために、区で補助を出してバックアップ→若いメンバーが増えてきた。小学校に出向いたり祭りに出たりして、発表の場を設けている。
- ・子ども夢基金を使って、公民館にインターネットをひいてほしい。総務省のWifi設置補助金申請をしてほしい→そうすれば一気に公民館活動の場が広がる。
- ・全体の人口が減っているのだから、パイの取り合いでどこの自治体も必死。他と差別化して魅力的なことをしていかないとだめだと思う。
- ・郷土愛を育むため、また、年寄りを外に出すため、市民には歴史博物館や美術館などの年間パスポートを配ったらどうか。
- ・地区に消防団の元気が必要。
- ・現代は子育て世代の大半が共働き世帯。おじいさん、おばあさんがいない家庭は、どうやって地区に入っていけばいいか（溶け込めばいいか）むずかしい。
- ・県の学びの改革、高校再編成の話はさみしい→伊那北・弥生・高遠が危険のようだ。

《 東部地区会場：やますそ 》

- ・地域に住み続けられることが大切。今は自然災害が心配。戸草ダム建設を願う。
- ・子どもたちがここに育ってよかったと思えるようにしたい。
- ・なにかするときに、子ども対象に集めると保護者はついてくるから、自然とそこで保護者同士顔見知りになる。
- ・郷土芸能を語る会を何十年もやっていて、今後も広めていきたいが、行政は何もバックアップしてくれない。
- ・なんといっても一番のウリは高遠の桜だが、国の史跡だから規制が厳しくて、これから続けていくことが大変になっていくのではないかと。
- ・移住に力を入れているが、受け皿は本当に整っているのか？空き家を用意してあるだけでいいのか？転入したら区に入れとか、そういう受け入れ態勢でいいのか？インフラは整っているか？心は整っているか？
- ・人口増に向けて受け入れ態勢がないとだめ。働き場がないとだめ。企業誘致。
- ・地域コミュニティを発展させようがない。区の合併を考えている。
- ・長谷地区には住宅補助金があるが、他にも長谷に住むメリットのある施策を作してほしい。
- ・税の還付などで、町部と僻地部で差をつけるとかできないか。
- ・高遠北小や第二・三保育園の保護者は移住者が多い。積極的に役員等引き受けてくれる。自分も町部にいたが、子供が生まれたので長藤に戻ってきた。戻るということは郷土愛があるということ。移住者やIターンUターン者に「どういう魅力があってここに来たか」聞いてみるといい。声を聞くべき。
- ・今は「田舎」＝「農業」という時代ではない。田舎でも芸術やITや学術をウリにできる。誘致できないか。ただし道路の利便性は大切。
- ・若者に魅力のある就職口がない。
- ・通学区の見直しが必要。
- ・信州型コミュニティスクールをやっているが、学校の外の受け皿がない。

その他の意見

- ・請願陳情や、議案に対する議員の賛否は市報でわかるが、その過程でどういう議論がされたのかを市民にわかるように表してほしい。

検討テーマ	処理担当委員会
在宅介護について	社会委員会
市民から出された意見	
<p>①市は既存の介護保険制度の冊子を見直し、字も大きくして、高齢者でもわかりやすく読みやすい制度解説パンフレットを作成し、全戸に配布するとともに、市民に在宅介護を学ぶ機会を増やしてほしい。 また保健師を各支所に再配置して体制強化を図ってほしい。</p> <p>②市の「高齢者いきいき健康券」の利用範囲を拡大して(例えば「とろみ剤」などのような生活支援用品全般)、利用率向上を図ってほしい。</p> <p>③市が民生児童委員に依頼している任務(「高齢者いきいき健康券」の配布など)や、充て職として招待している各種行事への参加等(各地区の行事を含む)負担が大きいため、任務軽減の「ガイドライン」を市から示してほしい。</p>	
現状・市の対応(社会福祉課・高齢者福祉課)	
<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度の冊子については、「わたしたちの介護保険」という民間の事業所が作成したものを購入し、65歳に到達した方へ配布している。全戸配布はしていないが、窓口等において希望者への配布もしている。 ・何種類かあるパンフレットの中から、字の大きさなどの見やすさも含め、内容のわかりやすいものを選んでいますが、字の大きさについての要望が大きければ、別の方法を考えていく必要がある。 ・市としては、介護保険制度や認知症に対する学習会のほか、要望があれば「おでかけ講座」を実施している。ただし、介護の仕方については取り扱っていない。 ・保健師は健康推進課と高齢者福祉課にわかれており、それぞれ扱っている分野が違い、現状では一人の保健師が赤ちゃんから高齢者まで、全ての制度に対応できていないため、各支所への配置は難しいと考える。 <p>②「高齢者いきいき健康券」は金券ではなく、介護予防や引きこもり防止など、健康づくりの目的で交付しているものであるため、「紙おむつ等購入券」の用途を拡大し、とろみ剤購入にも使えるよう、来年度予算に要求していくことを考えている。</p> <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民生委員へお願いしている「高齢者いきいき健康券」の配布については、負担が大きいという民生委員からの声を受け、平成28年度は郵送とし、新規の方のみ配っていただいたところ、一部の民生委員からはやはり自分たちで配りたいとの要望があり、平成29年度は地区の民生委員会ごとに配布又は郵送を選択してもらったため、この件についての負担は軽減されている。 ・充て職での出席が大変という声も確かにあるが、民生児童委員の中には、もっと積極的な関わりを求める考えもあるので、理事会の中で検討していきたい。 	
社会委員会での検討結果	
<p>①市は、介護保険制度の「よくある質問集」など、字も大きくし、高齢者でもわかりやすい制度解説の冊子を作成し、後期高齢者に配布するとともに、各地区の「高齢者の集い」などで説明すべきである。</p> <p>②保健師の各支所への配置は地域包括支援体制への対応からも、人員増を含め検討すべきである。</p> <p>③市の「いきいき健康券」を「健康福祉券」と名称を変え、福祉の制度として利用範囲を生活・介護支援用品全般に使えるように抜本的に見直し、利用率向上を図るべきである。</p>	

検討テーマ	処理担当委員会
医療・健康について	社会委員会
市民から出された意見	
<p>① 急ぐべき課題は医療機関への交通手段の確保であり、「公共交通」や「おのりな号」などで市は問題解決をしてほしい。 また民業を圧迫しない範囲で、個人自家用車による「有償ボランティア」の研究(買い物支援と同様)をしてほしい。</p> <p>② 市の保健師や地域コーディネーターを各支所に再配置して体制強化をはかってほしい。</p> <p>③ 伊那中央病院への要望事項については、特に患者とのコミュニケーションがとれるよう、伊那中央行政組合を通じて改善(口腔外科設置・在宅リハビリ体制・セカンドオピニオン相談など)を求めてほしい。 また開業医の紹介状が必要などの仕組みの理由をわかりやすく広報してほしい。</p> <p>④ 市民と行政が健康・医療に関する施策の共通課題を掲げる「健康都市宣言」を行ってほしい。</p>	
現状・市の対応(企画政策課・健康推進課・高齢者福祉課)	
<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通については各地区に守り育てる会を設置し、地域からの提案を可能な範囲で実現していけるよう取り組んでいる。 ・各担当課と連携しながら対応を考えていきたい。 ・高齢者福祉課では、医療機関への通院等支援のため「福祉タクシー券」等を交付している。また「高齢者いきいき健康券」も、バス・タクシー券として使用可能である。 ・介護保険の「新しい総合事業」の中で、県内ではまだ例はないが、地域住民主体での移動支援についても立ち上げていくことを目指している。ただし、この事業については「要支援1・2」の方など特定の方が対象となっている。実際に地域で困っている方は要支援1・2の方だけではないため、他の方にも使えるような形を国でも検討している。市でも、ある程度補助を出し、地域住民主体で移動を行なう仕組みづくりが進むよう、地域福祉コーディネーターを中心に事業の立ち上げに努めていきたい。 <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康推進課所属の保健師は18名おり、3つの分野に大きく分けて担当グループ制で運用している面と、担当地区の赤ちゃん、妊婦、成人の健康相談や訪問等を行っている。保健師の支所配置については昨年、一昨年にも検討してきたが、担当する業務が増え複雑になっているため、保健師一人では対応できない。以前、支所配置の時期もあったが、検診や訪問に出る事が多かった。本庁でまとめて運営するほうが効率的と考えている。 ・地域福祉コーディネーターは社協に委託し6人いるが、地域の体制作り等を支援するもので、直接相談を受ける役割とは違うため、各支所に保健師等が配置されている体制であれば支所への配置も考えられるが、コーディネーター単独で配置することは難しい。 <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊那中央病院への苦情や要望については、全て伝えている。 ・口腔外科設置については、平成25年から特殊歯科口腔外科があり対応している。 ・回復期リハビリステーション病棟では、入院患者がスムーズに退院できるようにリハビリを行っている。27年10月に訪問看護ステーションができ、リハビリスタッフと連携しながら在宅でのリハビリができる体制になりつつある。慢性期のリハビリは老健施設や民間の医療機関でもでき、全てを中央病院で行う事は考えにくい。 ・他の医療機関にかかっている中央病院にセカンドオピニオンを依頼したい場合は、セカンドオピニオン外来があり対応している。中央病院から他の医療機関への紹介も行っている。 ・伊那中央病院で診療を受けるために開業医の紹介状が必要な仕組みに対する苦情が一番多いが、国の方針もあり、現在ある医療資源を分業し連携することが必要である。理由については病院の広報誌で広報しているが、必要であれば市でも行なっていきたい。 ・患者のよろず相談窓口となるメディカルコーディネーターの設置について、病院に要望として伝えたい。 <p>④ 健康都市宣言は市長の意欲や全体の気運がどうなのかによる。実際に参画している市町村は県内ではない。メリット、デメリットを研究し考えていきたい。</p>	
社会委員会での検討結果	
<p>① 市の「おのりな号」の利用規定を見直すとともに、民業を圧迫しない範囲での個人自家用車による「有償ボランティア」の研究、生活支援も含めた交通機関の体系的な再構築を図るべきである。</p> <p>② 保健師の各支所への配置は地域包括支援体制への対応からも、人員増を含め検討すべきである。</p> <p>③ 伊那中央病院への要望事項については、中央行政組合を通じて以下の改善を求めるべきである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紹介状による診療の仕組みの周知を図るべきである。 ・医療安全管理室などの市民の相談体制は確立されているが、相談しやすいワンストップの窓口対応を検討すべきである。 <p>④ 市の「健康都市宣言」を早急に制定すべきである。</p>	

検討テーマ	処理担当委員会
買い物支援対策について	社会委員会
市民から出された意見	
<p>①市は買い物物生活支援の行政的役割を市の施策に位置づけ、担当課や担当者を明確にしてほしい。</p> <p>②意見交換会での市民の声は、「商品をじかに見て買いたい」、「送迎の交通手段が必須条件」、「長続きする買い物支援の運営体制の構築」等である。 以前「富県新山の買い物支援」事業で実証実験をした。現在、「道の駅南アルプス村長谷」で「ドローン」を活用した「買い物支援事業」の実証実験を始めているが、買い物弱者の声も調査して市民ニーズを掴んでほしい。</p> <p>③市は買い物物生活支援に取り組む市社会福祉協議会、地区社協、区、民生児童委員、ボランティア事業者積極的ににかかり、市民ニーズに合った支援体制を構築してほしい。 すでに市内各地で始まっている買い物支援組織(市社会福祉協議会「買い物支援」・藤沢区「お買い物サロン」・美原区「支え合いの会」・笠原区「買い物送迎ボランティア」・伊那まちの再生やるじゃん会・JA上伊那・ニシザワ・泰成運輸など)の活動に助成してほしい。</p> <p>④送迎の交通手段として「おのりな号」の利用規定の見直しを図ってほしい。市の「協働のまちづくり交付金」を、買い物支援の「有償ボランティア」の件費や運営費等に活用できるようにしてほしい。</p>	
現状・市の対応(企画政策課・地域創造課・社会福祉課)	
<p>①買い物支援全般については、代表として社会福祉課が対応する。</p> <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新山の買い物支援の実証実験(新山いきいきマーケット)についての実施結果のまとめの提出あり。 ・ドローンはまだ実証実験を重ねている段階。法整備も含め、実際に使えるレベルには至っていない。自動運転については、これから実証実験を予定している。地域の課題である人口減少、過疎化、買い物支援、人の動き等を含め、先端技術の活用による地域課題の解決に取り組んでいきたい。 ・市民ニーズの調査は社会福祉課が28年度に社協と協力して行った。それ以前にも行っている。 <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援体制としては、社協と協力して買い物支援ネットワークを組織している。 ・事業者に対して助成金・交付金での支援はしていない。情報提供や広報などについて、要望に応じて最低限のサポートをしていく。 <p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おのりな号の利用規定は各地区社協で決めている。各社協で規定を変えることは可能である。 ・有償ボランティアについてはタクシーとの競合もあり、原則的にはできない。例外的に過疎地や福祉のための有償運送の制度があり陸運局の許可があればできるが、料金を徴収することになるためハードルはかなり高くなる。おのりな号の活用や、自分の車でボランティア輸送を行うことも検討していただきたい。 ・協働のまちづくり交付金の事業採択は各地域協議会の判断となるが、事業を行う上での運営費は事業費として交付金を充てる事は可能であると考えられる。また、労働に対する対価も認められている。いずれにしても地域協議会での審議を受け、対象事業費の中身も決定することとなる。 	
社会委員会での検討結果	
<p>①市は買い物支援の行政的役割について担当課を社会福祉課としているが対策係を明確にし、市民にもわかるようにすべきである。 この問題においては社会福祉課、高齢者福祉課とともに企画政策課、地域創造課などとの関わりがあるところから庁内横断的な事業の対応をすべきである。</p> <p>②以前地域創造課で行った「富県新山の買い物支援」事業実証実験の結果がある。また現在企画政策課が「道の駅南アルプスむら長谷」でドローンを活用した「買い物支援」を含む実証実験を始めている。 これらの成果を十分生かしつつ、引き続き市は市民の意向調査をするなどして市民の買い物支援のニーズがどこにあるか的確に掴むべきである。</p> <p>③市民の声は、「商品をじかに見て買いたい」、「送迎の交通手段は必須条件」、「長続きする運営体制の構築」等である。市は市社会福祉協議会と連携体制をさらに強めるべきである。</p> <p>④すでに市内各地で始まっている買い物支援組織に対して、「有償ボランティア制度」などで「伊那市協働のまちづくり交付金」が使えることを周知するなどして地域の実態に即した支援を強めるべきである。</p> <p>⑤市の「おのりな号」を「買い物支援」に活用するためのガイドラインを示し、各支所ごとに利用規定の再検討やボランティア増員対策を検討すべきである。</p> <p>⑥自家用車による送迎ボランティア制度を市社会福祉協議会と連携して確立すべきである。</p>	

社会福祉分科会(在宅介護)で出されたその他の意見

- ・在宅介護をするために、介護保険制度とサービス事業の内容などの周知を図るべき。
- ・世話やきを善とする地域コミュニティの醸成を図る事。
- ・介護保険料の軽減や介護職員の給与アップにふるさと納税の活用を。
- ・民生委員の増員、もしくは協力員の設置、2人での訪問を可能に。
- ・中学生から介護体験等、介護教育の実施。
- ・介護保険を使う事が恥と思い保険を使わない人がいる。介護保険の活用促進と介護施設の設置状況の周知を丁寧に。既存の冊子でなく、理解し易いパンフレットの作成をして各戸へ配布をしたり、高齢者の集いで学んでもらう機会を。
- ・家で看取るのが一番の誇り、贅沢なこと、をPRして市民が気付ける方法を。
- ・1人暮らしのフォロー、見守り隊が出来ないか。
- ・オレンジカフェの利用が少ない。呼びかけの方法が解らない。
- ・在宅介護をする人のケアが必要。お金でなく気持ちを支えること。
- ・市は困っていると言える、住みやすいと言えるサービス業に近づいて欲しい。
- ・紙おむつは介護度の低い人にも支給して欲しい。尿漏れが原因で外出を控える人が多い。
- ・介護職への男性の登用。
- ・在宅介護の男性の協力を。
- ・民生委員の活動の在り方の改善。家の中の事は閉鎖的で、受け入れてもらえないなど、困難な事が多い。月1回の情報交換をしてほしい。
- ・夜間訪問をしてほしい。
- ・いきいき健康券をとりみ剤でも使えるようにしてほしい。
- ・孤立しない暮らしなど役割のある地域になっているか。
- ・高齢者を支える側の研修はあるが、支えられる側の声はどこにあるか。
- ・組内での交流を活発にする方法を。

社会福祉分科会(医療・健康)で出されたその他の意見

- ・最重要課題は、市民と行政が「健康長寿で幸せ」という共通の目標を掲げ共に取り組むことが何より大事であるので、「健康都市宣言」をしてはどうか。

《地域の取り組みについて》

- ・地域に密着し、よりきめの細かいケアをしたり、人と人をつなぐことの出来る人材の配置を増やすべきである。
- ・地域で暮らし続けるためには、体系的な交通手段の確保が最も重要な課題。
- ・急ぐべき課題として、地域事情に即した在宅介護を支援する市独自の体制を整える。

《伊那中央病院について》

- ・様々な市民の悩みや問題の解決のために医師と患者、患者と地域、医師とホームドクターなど、市民の立場で「つなぐ」仲介者となる人材の配置。
- ・リハビリテーションの充実。
- ・市民の声を医療機関に反映させる協議の場の充実。

《健康》

- ・トレーニングの推進。パワートレ・カラオケ・脳トレ。
- ・健康優良者を讃える。
- ・独居老人、老人世帯の相談役・声かけ。
- ・人間ドック推進。
- ・死ぬまでは楽しもう！健康宣言。

《救急》

- ・狭い木戸などの搬送路の整備。
- ・地域でAEDなど救急講習。
- ・救急車の到着が遅いところをなくす。

《医療》

- ・リハビリの充実。
- ・口腔外科が必要。
- ・病診連携、急患の受け入れ。
- ・問題解決に市民参加の協議体を。
- ・高度医療機関への紹介。

《リハビリ・在宅》

- ・地域で支え合い人材資源マップづくり。
- ・子ども・孫三世代コミュニケーション。
- ・子育てママの就労支援。

社会福祉分科会(買い物支援)で出されたその他の意見

1. 買い物生活支援意見

《移動手段について》

- ・高齢者で免許証返納したので買い物・通院の移動手段に困る。
- ・バスが運行していないので、買い物に出掛けられない。
- ・近所に商店が無く高齢者だが、免許証返納が出来ない。
- ・買い物、通院、銀行等への移送の仕組みが欲しい。

《ボランティアについて》

- ・ボランティアの人員が不足している。
- ・ボランティアだけに頼るのはいかがなものか。
- ・買い物支援隊を発足したら。
- ・シルバー人材の活用を検討したら。
- ・ボランティアの無償は検討を要す。

《移動販売車について》

- ・行政が移動販売車の購入助成をし、運営は民間委託で実施して欲しい。

《運営体制について》

- ・行政と区、社協、民生児童委員等の各地域組織の連携強化が必要では。

《補償体制について》

- ・ボランティア活動中の事故補償は、どうなっているのか。
- ・事故対応の窓口業務は、行政窓口で実施して欲しい。
- ・万一の事故を考えると、ボランティア活動が出来ない。

2. 行政への取り組み要望の意見

- ・買い物支援体制構築は、行政が積極的に介入し、伊那市社協・地区社協・地域社協・区・民生児童委員が、連携し地域ニーズに合った支援組織の構築が出来る様 支援して欲しい。
- ・買い物支援は、ボランティア活動と言っても、他のボランティア活動と区分し、気安く頼め、気安く請けおえる、有償ボランティア制度の検討をして欲しい。
- ・ボランティア活動中の万一の事故補償保険制度について、市民に周知し、ボランティア活動参加者の増員に努める必要がある。

検討テーマ	処理担当委員会
あなたがやりたいまちづくり ～ 農林業 ～	経済建設委員会
市民から出された意見	
<p>農地・林地について不在地主対策、耕作放棄地対策、所有者不明対策を。</p>	
現状・市の対応	
<p>【農政課】</p> <p>◆不在地主対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年12月に公表された農林水産省の調査(相続未登記農地等の実態調査:平成28年8月時点)によると、伊那市では相続に伴う不動産登記簿未登記の農地面積が528haであり農地全体面積6,091ha(登記地目による)の8.7%を占めています。 ・農地基本台帳の配布を市内居住者には11月、市外居住者には2月に毎年実施しています。 ・農地基本台帳により、自分の管理農地の確認を行っていただくようお願いしています。 ・農地基本台帳は、保管用と提出用を送付し、提出用を返していただくようにしていますが、その際に管理農地について、「農地ナビ」に当該農地の情報として「売りたい」「貸したい」を表示するかどうか意向を確認しています。 ・遊休・荒廃化により、周辺農地等へ悪影響がある場合には指導等を行っています。 <p>◆耕作放棄地対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農地パトロールを6月から8月に実施し、遊休・荒廃農地の確認を実施しています。 ・遊休農地と判断した場合、所有者等に対して農地利用意向調査を実施し、今後の農地管理について確認しています。 ・地区農業振興センターを中心とし、利用権設定の促進及び再生事業の活用により遊休農地の解消に取り組んでいます。 → 耕作放棄地再生事業 <p>【耕地林務課】</p> <p>◆林地所有者不明対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・林地については、平成28年の森林法の一部改正に伴い、林地台帳の整備を行うことになっています。現在、県において台帳の基となる原案の作成を進めており、平成30年4月に県よりこの資料の提供を受け市で詳細情報を加え平成31年4月に公表する予定です。 この台帳には、所有者や森林資源の情報や地図情報などを整備しますので一定の対策になると考えています。 	

経済建設委員会での検討結果

◆不在地主対策

・不在地主の実態を把握することが第一である。

土地の相続は義務ではなく、任意である。農地の相続登記がなされず長い年月が経過する中で所有者不明となっているところも多いと思われる。土地は個人の財産であると共に、公共性の高い存在であることを一人一人が学ぶことが大事である。

◆耕作放棄地対策

・耕作放棄地は中山間地域に多い。国は中山間地域等直接支払交付金事業、多面的機能支払交付金事業に交付金を出して農村の持つ多面的機能の維持を図っているが、高齢化、後継者不足で思うようにはいかない。農業政策だけではなく総合的な対策が必要ではないか。

◆林地所有者不明対策

・伊那市の地籍調査の進捗状況は16%であり、山林については長藤地区を除いてほとんど実施されていない。林地台帳の整備は大変だと思われるが、現在ある情報によって、林業の成長産業化を実現する所期の目的を達成するよう期待するとともに、林地台帳、森林の土地に関する地図のより正確な整備を進めてほしい。

検討テーマ	処理担当委員会
あなたがやりたいまちづくり ～ 観光 ～	経済建設委員会
市民から出された意見	
観光施策に対応する組織づくりとして検討チームの設置を。	
現状・市の対応（観光課）	
<p>観光課には観光政策係があり、市の観光全般について取り組んでいます。その中で、3年に一回伊那市観光基本計画のアクションプランの見直しを行っていますが、見直し検討委員会のメンバーは、観光事業者、宿泊事業者、飲食店、運送事業者等に入っていていただき、3年間において重点的に取り組む具体的な事業を明確にして推進しています。</p> <p>また、「高遠城下町プロジェクト」、「山岳高原観光中長期計画検討委員会」などを設置して具体的な事業について検討を進めています。</p> <p>これとは別に、伊那商工会議所で主宰しています、「南アルプス観光魅力創出プロジェクト特別委員会」や「伊那の食プロジェクト特別委員会」などの委員に職員が参加し、観光振興について協働で検討を進めています。</p> <p>また、上伊那観光連盟が中心となって、上伊那版DMO設立に向けて準備を進めています。この組織は、上伊那管内の行政と観光施設事業者、宿泊事業者、運送事業者、飲食店、観光協会などの民間の皆さんが協働で、地域が儲かる仕組みづくりを考え実践していきます。</p> <p>高遠町地域でも、「高遠城下町プロジェクト」という組織も立ち上がり、観光客が高遠町内を周遊してもらえるよう、検討するなどの取り組みが始まっています。</p>	
経済建設委員会での検討結果	
観光施策には斬新な視点が必要であり、観光施策の立案をボランティアの充て職による委員会に頼るのではなく、外部人材やプロを中心に誰でも入れる組織づくりを検討されたい。加えて地元の資源や人材に精通した観光のプロの職員を育成し、高遠・長谷地区は熱意のある職員を配置されたい。	

検討テーマ	処理担当委員会
あなたがやりたいまちづくり ～ 観光 ～	経済建設委員会
市民から出された意見	
<p>自然(森・星)を活用したビジネスを育てるとともに人材の育成を。</p>	
現状・市の対応(観光課)	
<p>自然を活用した観光素材としては、南アルプス・中央アルプスなどの山岳、入笠山・鹿嶺高原・守屋山などの里山、エコパーク・ジオパークなど豊富にあります。 これらを活用したビジネスとしては、山小屋や里山ガイド、マウンテンバイク、ジオパークガイドなどがあり、市としてもPRを行うとともに、観光協会でも活用をしています。 また、ジオガイドを毎年養成を行っていますし、里山ガイドプランナーとして地域おこし協力隊員を採用して取り組んでいます。 本年からは、鹿嶺高原キャンプ場の運営を(一社)伊那谷山りん舎に指定管理し、民間の発想を取り入れた運営を行っていただいています。入笠山につきましても、既存の施設を継承して新たに営業を始める事業者も出てきています。</p>	
経済建設委員会での検討結果	
<p>(一社)伊那谷山りん舎や入笠山で事業を展開する事業者、地域おこし協力隊員の活動による今後の広がりに期待したい。また、官民協同の視点からも、こうした新規事業者、団体等との連携を図り、積極的なサポートや支援等についても検討されたい。</p>	

検討テーマ	処理担当委員会
あなたがやりたいまちづくり ～ 観光 ～	経済建設委員会
市民から出された意見	
マイカー以外(公共交通機関)で観光に訪れた人の交通施策の対策も。	
現状・市の対応(観光課)	
<p>現在、公共交通機関の2次交通対策として、期間限定ではありますが、茅野駅と仙流荘を結ぶジオライナーと木曽福島駅と仙流荘を結ぶパノラマライナーを運行しています。</p> <p>さくら祭りの期間についても、JRバスに茅野駅からの臨時便を運行してもらっています。</p>	
経済建設委員会での検討結果	
<p>マイカー以外(公共交通機関)で観光に訪れた人が市内の観光スポットを周るのに、どのバスに乗ればいいのか分かりにくいのが現状である。市内を走る公共交通を、市民と観光客双方が利用しやすいルートの検討を進めてはどうか。アプリの活用等、告知方法も含めて検討されたい。</p>	

検討テーマ	処理担当委員会
あなたがやりたいまちづくり ～ 幹線道路 ～	経済建設委員会
市民から出された意見	
<p>市内の幹線道路の改修、改良工事が遅れているため、今後大幅に予算を増額し早急な対応を。</p>	
現状・市の対応(建設課)	
<p>○県が進めている幹線道路整備のうち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国道153号伊那バイパスと国道152号栗田～四日市場工区は早期完了を。 ・伊駒アルプスロード、環状北線は早期事業化を。 <p>県道も合わせて予算の安定的な確保について要望しております。</p> <p>○伊那市で進めている環状南線の整備については、H32の合併特例債の期限までに整備できるよう鋭意取り組んでおります。</p> <p>○生活道路については要望箇所も多く、すべての要望に対応することはできませんが、財政健全化プログラムに沿って限られた財源の中で、緊急性、優先性を考慮し、有利な財源の確保を行い、事業の選択と集中により取り組んでいきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なお、通常予算に30,000千円を追加して事業を実施しております。 	
経済建設委員会での検討結果	
<ul style="list-style-type: none"> ・県が進めている幹線道路整備と、伊那市が進めている環状南線の整備については、市建設課の対応を注視していきたい。 ・市内の生活道路の整備については、本年度通常予算に30,000千円を追加して事業を進めているが、来年度からは100,000千円程度の追加予算を計上し、早急に生活道路の補修、整備を完了するよう検討されたい。 	

経済建設分科会（農林業）で出されたその他の意見

《 竜西地区会場：いなっせ 》

- ・ J Aとも協力して伊那の名産品（農産物・果物）の開発を。例えば、ブルーベリーの大量生産を進めてほしい。
- ・ 伊那はミニ北海道であり、農業と観光をドッキングした観光牧場などの取組みを。
- ・ 伊那の名産であるマツタケを守るため、ドローンを活用した松枯れ対策（薬剤散布）を。
- ・ 地元の森林資源を建築材などとして、地元で活用する施策を。
- ・ 森林税を活用して、山林の作業道の整備を進めるとともに、所有者不明・境界不確定の解消を。
- ・ 農林業従事者の後継者・担い手の確保を。
- ・ スマートインターの周辺開発は規制だけでなく、市としての開発ビジョンの作成を。
- ・ スマートインター周辺の工業団地化が進むことにより、農地の減少が懸念される。
- ・ スマートインター周辺に、西部地区発展の基礎となる住宅団地の造成や、交流の場となる施設の建設を。
- ・ 西部地区の鳥獣被害対策に力を入れてほしい。

《 竜東地区会場：伊那公民館 》

- ・ 伊那の名産であるマツタケを守るため、松枯れ対策に更なる助成を。
- ・ 「漆」に活路がある。
- ・ 後継者不足による耕作放棄地が増加しており、後継者がいても農業は「やらない」、「やらせられない」。
- ・ 道路脇や空き家にある樹木が繁茂しており、危険で景観上も好ましくないため処理を。
- ・ CO₂削減のためにも、バイオマスの活用促進を。

《 東部地区会場：やますそ 》

- ・ 間伐材の活用・処分も含めて山林資源の有効活用を。
- ・ 森林税を活用した林道・作業道の整備を。
- ・ 松くい虫対策では、山林だけでなく平地林も含めてドローンの活用による薬剤散布を。
- ・ 不在地主対策、所有者不明・境界不確定の対策を。
- ・ 有害鳥獣の駆除を進める中で、サル捕獲用の檻の設置を。
- ・ 道路脇や空き家にある樹木が繁茂しており、危険で景観上も好ましくないため処理を。
- ・ 太陽光発電は農地や景観において悪影響であるため、もっと規制をしてはどうか。
- ・ 地元のことは“自分たちで”、“地域の力で”といった発想が大事。

経済建設分科会（観光）で出されたその他の意見

《 竜西地区会場：いなっせ 》

- ・観光施策は行政内部や充て職ではダメ。ビジョンを検討する場として、誰でも参加できるワークショップの開催を。
- ・観光におけるエキスパート職員の育成を。
- ・自転車で走りやすい街づくりを。
- ・古い地名や歴史文化を観光に活かす取組みを。
- ・子どもたちが自然と触れ合う機会が減っている。日ごろから自然と関わる場を作るとともに、家庭や学校での教育も検討するべき。
- ・スマートインター周辺開発のビジョンが必要。季節限定の出店場所の整備や、地元企業（かんてんぱぱ、養命酒、ニシザワ等）の出店を。

《 竜東地区会場：伊那公民館 》

- ・観光客にどこでお金を落としてもらうかの戦略を明確に。
- ・観光施策は観光客の「人数」より「経済効果」を。
- ・「見る」観光から「体験」をつなげてツアー化する。（すがれ追い、漬物づくり、きのこ採り、盆踊り等、カヌー、林業等）
- ・外部目線で使えるコンテンツをリストアップするような組織・仕組みづくりを。
- ・広域でデザイン、看板の統一を。

《 東部地区会場：やますそ 》

- ・地域の歴史的財産が活用されていないため、「高遠ぶらり」の活用も含め、広域でのストーリー作りと街歩きのコース設定を。古い地名表示の看板を整備してはどうか。
- ・バイク客の視点での観光戦略や、サイクリングのしやすい街に。
- ・気の里でヨガを。
- ・農業と観光を結び付ける取組みを。
- ・学校登山は観光振興の弊害となっているのではないか。
- ・観光に使いそうなコンテンツをつなげるために、誰でも参加できるワークショップの開催を。
- ・高遠を職人の街に。
- ・鹿嶺高原、入笠山を開発してはどうか。

《 各会場共通事項 》

- ・まずは市民が地元の観光を楽しむことが、外部への発信につながる。
- ・飯田線の活性化を含めて、地域の公共交通を観光客が利用しやすくなる検討を。
- ・観光パンフレットが多すぎる。

経済建設分科会（幹線道路）で出されたその他の意見

《 竜西地区会場：いなっせ 》

- ・環状南線、北線は立体交差ではなく、平面交差にしてほしい。
- ・東西の幹線道路がいつも混雑するため、解消策を検討してほしい。
- ・都市計画道路が分かりにくいいため、ビジョンを分かりやすく提示してほしい。
- ・市内至る所の道路がつぎはぎ（補修）だらけである。予算を増額して綺麗に整備をしてほしい。
- ・市長の公約どおり、飯田線に特急を走らせてほしい。

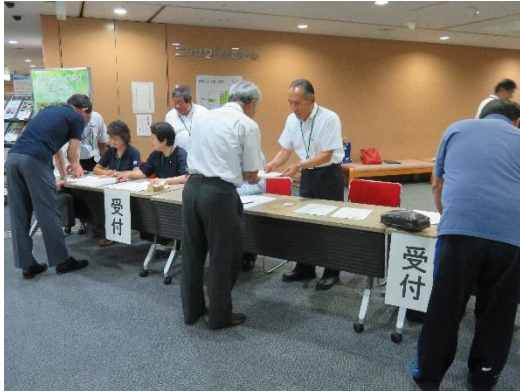
《 竜東地区会場：伊那公民館 》

- ・環状北線の整備に当たっては、住民の声を十分に聞いてほしい。
- ・153号線バイパスの通過地区においては、生活権を保証し、利便性と環境について優先的に考えてほしい。
- ・153号線バイパスの上の原－青島地区間の早期着工を目指してほしい。
- ・153号線バイパスの設計において、6mの土盛りは地区を分断してしまうため反対であり、要望をしている。
- ・道路改良の進捗が遅い。
- ・153号線バイパスについては、安全面を十分に配慮して幹線道路に接続してほしい。
- ・美篤地区の国道361号の歩道が未改修となっている。
- ・上の原地区に、高齢者も利用しやすい複合的な道の駅を設置してほしい。
(買い物のできるお店や医療関係施設の併設)
- ・道路問題は地元との話し合いを密にして進めてほしい。

《 東部地区会場：やますそ 》

- ・過疎地域の公共交通機関を確保するとともに、JRバスの運行を継続するため、運賃等補助金の増額をしてほしい。
- ・153号線バイパスの計画が当初より遅れているため早期実現を。
- ・環状南線の早期開通を。
- ・県内各地に比べ道路整備が遅れている。
- ・高遠・長谷地域から伊那までのアクセスが良くなるよう道路網の充実を。
- ・市、県、地域振興局との連携が上手くいっていない。市役所の建設部が楽観的すぎる。
- ・権兵衛トンネルを越えた伊那側の景観が素晴らしい。木曾と連携して名古屋方面からの誘客をしてほしい。

各会場の様子



受付 (いなっせ)



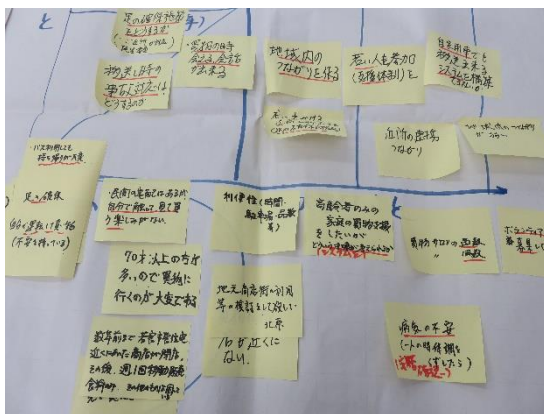
総務文教分科会 (やますそ)



社会福祉分科会 (伊那公民館)



経済建設分科会 (伊那公民館)



ワークショップで参加者の皆様からたくさん声を聞くことができました。

次回も大勢の皆さまのお越しをお待ちしております。



伊那市議会ホームページでも公開しています。

[http://www.city.ina.nagano.jp/shigikai/
ikenkoukankaihoka/index.html](http://www.city.ina.nagano.jp/shigikai/ikenkoukankaihoka/index.html)

編 集： 伊那市議会 議会運営委員会・正副委員長会

編 集 長： 議会運営委員会 委員長 宮島 良夫

副編集長： 副委員長 飯島 進

編集委員： 総務文教委員会 委員長 唐澤 千明

副委員長 柳川 広美

社会委員会 委員長 飯島 光豊

副委員長 白鳥 敏明

経済建設委員会 委員長 唐澤 稔

副委員長 丸山 徹一郎

この報告書は1冊あたり464円(税込)かかっています。
ただし、編集時の職員の人件費は含まれていません。